玉造中だより
楽し学舎（まなびや）
No. 37
R3・2・8

茨城県立高校の願書受け付け始まる！

茨城県立高校の入学願書の受付が今日から始まりました。三年生にとってはいよいよ公立高校の受検の日が間近に迫ってきました。一・二年生にとってもこれからの参考になるかと思いますので今後の予定をお知らせします。

県立高校入試は3月3日，頑張れ3年生！

昼休みも勉強に励む3年生

◇茨城県立高校入試日程

- 二月八日～十日　一般入学出願期間
- 十七日～十八日　※志願先の変更期間
- 三月三日　一般入学学力検査
- 四日　※特色選抜
- 十二日　合格者の発表
- 十五日～十六日　二次募集出願
- 二十二日　二次合格者の発表

※志願先は一度に限り変更できます

※文化・芸術・体育・奉仕活動及び生徒会のいずれかの分野で優れた資質・実績を有し，かつ高校の定める出願要件を満たす生徒が受検できます。

これからは「これまでの復習」と「最後まであきらめない」気持

受検まで残り一ヶ月を切りました。三年生はこの残された日々をどのように過ごすのでしょうか？

これまで多くの先輩方を見てきての経験で話をします。残り一ヶ月、まずは「新しいことをしないこと」。これまで勉強してきたことをもう一度振り返り、確実に自分のものにしていくことです。新しいことを始めても、なかなかもう身に付きはしません。逆に焦りを感じて不安になります。ここまでできたら今までやってきたことを信じましょう。

二つ目は「最後の最後まであきらめない」こと。出願が終わると、新聞等で倍率が出ます。決して数字に左右されないこと。そして何よりもないのは「あきらめ」です。やってもいないのにあきらめてしまうことなく、時間がある限り最後の最後まで全力を尽くして下さい。

正しく判断し、使うのはあなた！
一年生「ケータイ安全教室」実施

四日（木）の六校時に一年生対象の「ケータイ安全教室」が開催されました。新型コロナウィルスの感染拡大の影響を受け、当日は東京と玉中をつないでのリモートによる教室になりました。最近の生徒指導上の問題は、その大半がケータイ・スマホがきっかけとなっているのが現状です。一年生の大事な時期だからこそ、正しい使い方を学んで欲しいという願いから開催されました。

リモートでの「ケータイ安全教室」でした

今回の教室は、NTTdocomoの協力により講師の話を聞いたり、動画を視聴したりと、約五十分間の活動でしたが、充実した時間となりました。

中学生が対象ということで、TikTokやインスタなどのSNS、LINEなどのコミュニケーションアプリでの危険性を中心に進みました。

「自分には起こらないと思っているかもしれないけれど、実際に被害に遭った人も同じように思っていたはず。」という言葉にみんなドキッとしていたようです。

ふるさと行方の魅力発信！
道の駅に行ってみよう！

コラボ企画のポスター

本校では今年度、ふるさと行方を知り、これからの行方市の在り方を地域へ発信していこうという取組をしています。

先日も三年生が市の政策推進室とタイアップしてのプロモーション発表会を開催し、行方市への施策の提案をしました。

その第二弾として、二学年では美術科の授業の単元で、観光物産館「こいこい」道の駅「たまつくり」とコラボして、実際に店頭で使っていただくポップを制作しました。

制作にあたっては、まず行方市の魅力、特に農産物にはどんなものがあるのかを知り、それを消費者に買っていただくにはどうアピールしていくかを勉強しました。そのなかで特に、行方市のよさの引き立つ構図・目をひく色彩、丁寧な筆づかいにこだわってデザインしました。その二年生のデザインが今回店頭に並びますので、みんなが描いたデザインが学校で学んだことが社会でどのように活用されているのか確認してみて下さい。

展示期間は二月六日（土）～三月七日（日）の一ヶ月間です。

編集後記
「やさしさに包まれたなら②」

先日、ある担任の先生が職員室でこんな話をしてくれた。

「私が明日、用事があって休むことを学級で話したら、帰りにある生徒が近づいてきて『先生、気をつけて行ってきてね』と声をかけてくれた。なんて優しい子だろうと私は一日の疲れも吹っ飛んでうれしくなってしまった。」

先週行われた全校朝会で。校内書き初め展の表彰があった。各学年の「金賞」受賞者が一人一人表彰状を受け取っていた。その中である二人の生徒は、賞状を受け取る際に「ありがとうございます」と感謝の言葉を声にだし受け取っていた。黙って受け取ることが多い中、その二人の生徒の一声に、賞状を渡す方の側はホッとした気持ちになった。

ある教室で一人の生徒がシャープペンシルが壊れてしまい、芯が出ないので困った状態になっていた。すると、近くにいたある生徒が「これ使いなよ」とさりげなく貸してくれた。普段の自分に対する言動から、このことで少し見方が変わった。

授業開始前のある教室で。次の時間の授業の準備をしていると、係ではないがいつもモニターの準備やパソコンへの接続を自然に手伝ってくれる生徒がいる。自分の好きなことを生かして貢献してくれるある学級の生徒。

どれもちょっとした言動である。でもそのちょっとした言動で、相手や周りの人たちをほっとした気分にさせてくれる。「さりげないやさしさ」とはこのことを言うのだろう。こんな人がたくさんいたら世の中もっと住みやすくなるのだろう。